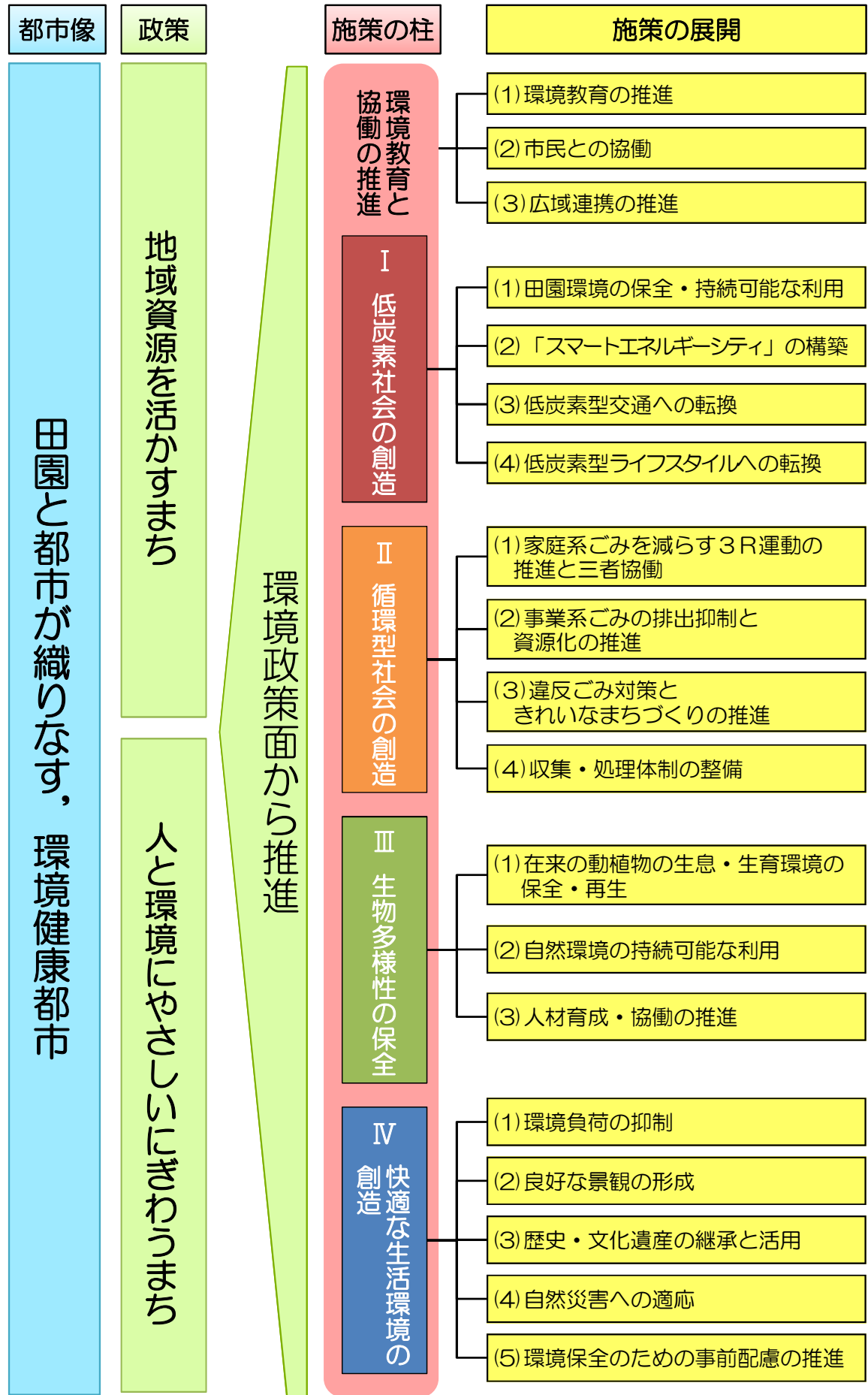


第3次新潟市環境基本計画の進捗状況について

1. 施策の大綱



2. 評価指標の達成状況(案)

I 低炭素社会の創造	計画時点 (2018年度)	実績 (2019年度)	目標 (2024年度)
1世帯あたりの二酸化炭素排出量 (家庭部門排出量/世帯数)	4.6t-CO ₂ /世帯※ ₁	4.8t-CO ₂ /世帯※ ₂	3.6t-CO ₂ /世帯
市内1事業所あたりの二酸化炭素排出量 (産業・業務部門排出量/市内事業所数)	113.1t-CO ₂ /事業所※ ₁	114.3t-CO ₂ /事業所※ ₂	96.3t-CO ₂ /事業所
電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド(PHV)、燃料電池自動車(FCV)台数	EV:833台 PHV:671台 FCV:2台	EV:951台 PHV:743台 FCV:10台	EV:2,500台 PHV:2,800台 FCV:60台
区バス・住民バス利用者数	52.1万人/年度	51.5万人/年度	39.2万人/年度
※ ₁ 2016(平成28)年度数値 ※ ₂ 2017(平成29)年度数値			
II 循環型社会の創造	計画策定時点 (2018年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
家庭系ごみ量(1人1日あたり)※ ₁	488g	492g	475g
事業系ごみ排出量※ ₂	79,186t	78,718t	77,300t
リサイクル率※ ₃	26.4%	25.7%	27.1%
ごみ総排出量(1人1日あたり)※ ₄	1,006g	1,001g	987g
※ ₁ 家庭系ごみ量:「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計 ※ ₂ 側溝汚泥・ボランティア清掃などで排出される公共ごみ、資源化される食品残さを除く ※ ₃ リサイクル率=資源化量/総排出量(環境省一般廃棄物処理事業実態調査より) ※ ₄ 全てのごみの合計÷人口÷年間日数			
III 生物多様性の保全	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数	現状を維持	現状を維持
特定外来生物※ ₁ の種類	10種	13種	現状より減少
環境保全型農業を実施する農地の割合※ ₂	34.4%	26.44%	50%
※ ₁ 日本在来の生物の生活をおびやかす外来生物を国が定めたもの ※ ₂ 主食用水稲作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合			
IV 快適な生活環境の創造	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
生活環境における空気のおきれいさ※ ₁	0.007ppm	0.005ppm	現状より低減
沿道における空気のおきれいさ※ ₂	0.009ppm	0.007ppm	
水がよりきれいなランク※ ₃ になった河川・湖沼の水域数	-	1地点	3地点
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30団体	82団体	70団体
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48%	66%	60%
植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合※ ₄	78%※ ₅	85.7%	90%
※ ₁ 一般環境大気測定局における二酸化窒素濃度 ※ ₂ 自動車排ガス測定局における二酸化窒素濃度 ※ ₃ ランクとは、河川・湖沼の類型(AA, A, B, C, D, E)に相当するようなおきれいさとし、項目としてBOD75%値/COD75%値で評価 ※ ₄ 農地、水路、農道等の質的向上を図る共同活動を支援する「資源向上支払交付金」の対象農地の割合 ※ ₅ 当該項目のみ2014(平成26)年度の数値を記載			

2. 評価指標の達成状況(案)

【令和元年度】

I 低炭素社会の創造	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2018年度)	目標 (2018年度)
市域の温室効果ガス排出量	710万t-CO ₂ ※ ₁	635万t-CO ₂ ※ ₂	624万t-CO ₂
もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用	—	民間で活用	活用の実現
太陽光発電システム導入量(10kW未満)	18,000kW	33,305 kW	36,000kW
自動車利用の削減	—	2.6%増加	2.5%削減※ ₃
1世帯あたりの電気使用量(年間)	3,612kWh	—	3,160kWh

※₁ 基準年度である2005年度の排出係数を使用し、当該項目のみ2011年度の排出量を記載
また、排出量算定方法の見直しを実施したため、計画策定時の数値と異なっている。
※₂ 基準年度である2005年度の排出係数を使用し、当該項目のみ2016年度の排出量を記載
※₃ 1日あたりの自動車総トリップ数の2011年度からの削減率

II 循環型社会の創造	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2018年度)	目標 (2019年度)
家庭系ごみ量※ ₁ (1人1日あたり)	501g	488g	474g
事業系ごみ排出量※ ₂	84,962t	79,186t	74,500t
リサイクル率※ ₃	27.2%	26.4%	30.9%
最終処分量※ ₄	29,213t	24,261t	21,800t

※₁ 家庭系ごみ量:「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計
※₂ 側溝汚泥・ボランティア清掃などで排出される公共ごみ、資源化される食品残さを除く
※₃ リサイクル率＝資源化量／総排出量(環境省一般廃棄物処理事業実態調査より)
※₄ 資源化又は再利用されるものを除き、最終的に埋め立て処分される廃棄物の量

【令和2年度】

I 低炭素社会の創造	計画時点 (2018年度)	実績 (2019年度)	目標 (2024年度)
1世帯あたりの二酸化炭素排出量 (家庭部門排出量/世帯数)	4.6t-CO ₂ /世帯※ ₁	4.8t-CO ₂ /世帯※ ₂	3.6t-CO ₂ /世帯
市内1事業所あたりの二酸化炭素排出量 (産業・業務部門排出量/市内事業所数)	113.1t-CO ₂ /事業所 ※ ₁	114.3t-CO ₂ /事業所 ※ ₂	96.3t-CO ₂ /事業所
電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド (PHV)、燃料電池自動車(FCV)台数	EV:833台 PHV:671台 FCV::2台	EV:951台 PHV:743台 FCV::10台	EV:2,500台 PHV:2,800台 FCV::60台
区バス・住民バス利用者数	52.1万人/年度	51.5万人/年度	39.2万人/年度

※₁ 2016(平成28)年度数値
※₂ 2017(平成29)年度数値

II 循環型社会の創造	計画策定時点 (2018年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
家庭系ごみ量(1人1日あたり)※ ₁	488g	492g	475g
事業系ごみ排出量※ ₂	79,186t	78,718t	77,300t
リサイクル率※ ₃	26.4%	25.7%	27.1%
ごみ総排出量(1人1日あたり)※ ₄	1,006g	1,001g	987g

※₁ 家庭系ごみ量:「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計
※₂ 側溝汚泥・ボランティア清掃などで排出される公共ごみ、資源化される食品残さを除く
※₃ リサイクル率＝資源化量／総排出量(環境省一般廃棄物処理事業実態調査より)
※₄ 全てのごみの合計÷人口÷年間日数